



財政状況をお知らせします 令和4年度の決算

1010665

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止や市民生活・市内経済の安定化を図るため、これまで培ってきた本市の「財力」を発揮して迅速かつ着実に対応し、決算額は令和2年度に次ぐ2番目の規模となりました。財政指標はおおむね順調に推移しており、本市の財政は引き続き健全性を維持しています。

財政課 ☎(632) 2064

一般会計

Point

令和2年度に次ぐ過去2番目の決算規模

歳入 (収入) **2,654** 億円 (前年度比+62億円・2.4%増)
 歳出 (支出) **2,588** 億円 (前年度比+96億円・3.9%増)
66 億円

主な理由

- 市税の増加
- 市債の増加
- 国県支出金の減少 など

主な理由

- 普通建設事業費の増加
- 補助費などの増加
- 扶助費の減少 など

実質的な収支

34 億円の黒字

翌年度に
繰越32億円
(令和5年度に引き
続き実施する事業)

もっと
詳しく!

歳入と歳出の内訳はどうなっているの?

()内は前年度比

依存財源 ※2 48.5% 1,287億円

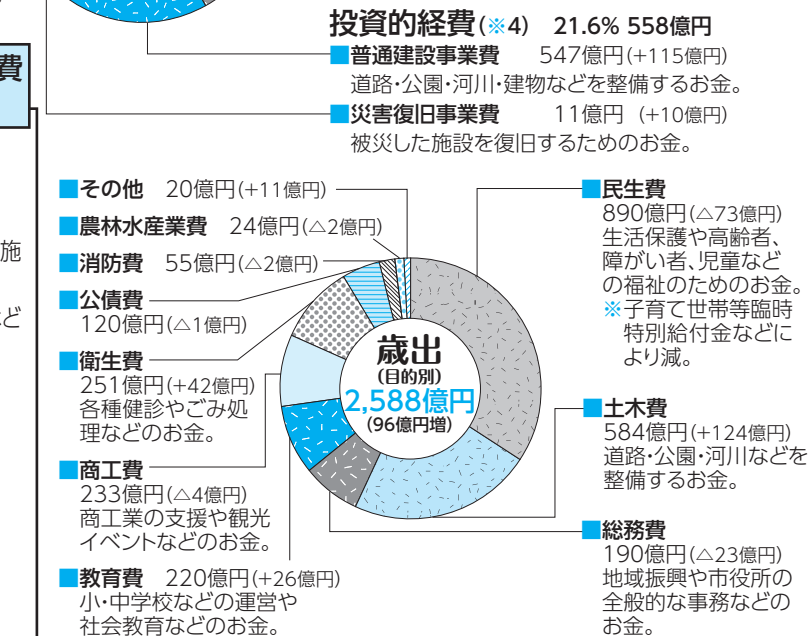
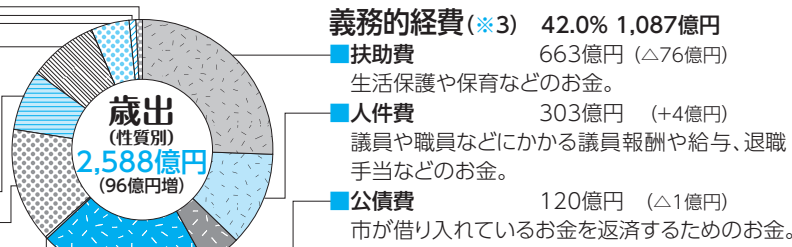
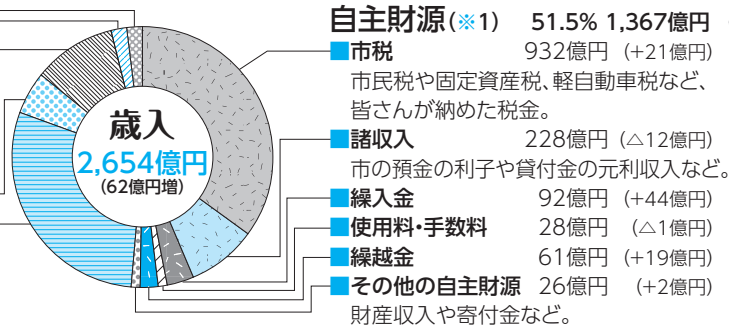
- その他の依存財源 47億円 (△10億円)
- 地方交付税 56億円 (+11億円)
- 市債 272億円 (+20億円)
- 地方消費税交付金 136億円 (+7億円)
- 国県支出金 777億円 (△40億円)
特定の事業に対して国・県から交付されるお金。

その他の経費 36.4% 943億円

- その他 21億円 (△29億円)
積立金など。
- 維持補修費 17億円 (△1億円)
- 繰出金 125億円 (△14億円)
- 補助費等 221億円 (+51億円)
- 貸付金 192億円 (△10億円)
- 物件費 366億円 (+47億円)
施設の光熱水費やごみ収集業務委託などのお金。

新型コロナウイルス感染症・物価高騰対策経費 (事業費総額 約290億円)

- 感染症拡大防止のための取り組み
 - ワクチン接種体制の確保
 - ワクチン接種の実施
 - 夜間休日救急診療所におけるドライブスルー検査の実施
 - 検査費用・入院医療費の公費負担
 - 保育園、学校、公共交通などの感染症防止対策の実施 など
- 市民生活を守るための取り組み
 - 住民税非課税世帯等臨時特別給付金
 - 子育て世帯生活支援特別給付金
 - 保育園・学校等給食支援事業
 - 水道基本料金免除事業 など
- 事業活動のための支援
 - ビジネスPCR検査支援
 - プレミアム付飲食券、商品・サービス事業
 - 原油価格・物価高騰対策支援金 など



◎表示単位未満を四捨五入した関係で、合計額と合わない箇所があります。※1 自主財源 地方公共団体が自主的に収入できる市税、使用料・手数料、諸収入など。※2 依存財源 地方公共団体が発行する市債や国・県により交付される国県支出金、地方譲与税など。※3 義務的経費 生活保護など、支出が義務付けられ、任意に削減できない経費。※4 投資的経費 道路建設など社会資本整備に要する経費 (普通建設事業費、災害復旧事業費)。

会計別

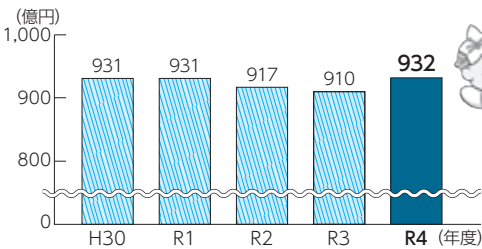
※資本的収支での不足額(△で表示)については、収益的収支での利益や積立金などで補いました。

会計名	歳入	歳出	差引額
一般会計	2,654億1,683万円	2,588億 307万円	66億1,376万円
国民健康保険	471億8,187万円	471億1,316万円	6,871万円
介護保険	367億6,353万円	361億1,240万円	6億5,113万円
母子父子寡婦福祉 資金貸付事業	2億6,615万円	5,658万円	2億 957万円
後期高齢者医療	62億7,329万円	62億4,843万円	2,485万円
競輪	274億1,893万円	272億2,980万円	1億8,912万円
駐車場	1億2,299万円	1億2,027万円	272万円
土地区画整理事業(※5)	46億6,926万円	44億7,573万円	1億9,352万円

会計名	歳入	歳出	差引額	
育英事業	4億 527万円	1億5,736万円	2億4,791万円	
特別会計合計	1,231億 126万円	1,215億1,373万円	15億8,753万円	
水道事業	収益的収支	109億4,838万円	90億3,037万円	19億1,801万円
	資本的収支	27億4,556万円	96億2,607万円	△68億8,050万円
下水道事業	収益的収支	155億7,874万円	149億2,395万円	6億5,480万円
	資本的収支	51億1,518万円	97億7,934万円	△46億6,416万円
中央卸売 市場事業	収益的収支	7億7,358万円	6億5,628万円	1億1,730万円
	資本的収支	11億5,800万円	10億2,796万円	1億3,004万円
企業会計合計	363億1,944万円	450億4,396万円	△87億2,452万円	

市税収入

市税収入の推移



Point!

市税収入は **932** 億円になりました
(前年度比**21**億円増)

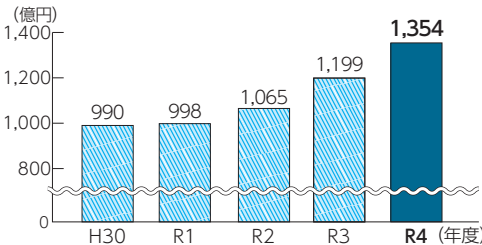
家計でいうと給料

中小事業者などに係る固定資産税の軽減措置の終了や給与所得の増加に伴い、増加しました。

市債残高

■市債とは 道路や学校などの施設整備を行うために資金を借り入れるものです。返済を長期間に分割して行うことで、世代間負担の公平性を確保しています。

市債残高の推移(一般会計)



Point!

市債残高は **1,354** 億円になりました
(前年度比**155**億円増)

家計でいうとローン

市債残高は、JR宇都宮駅東口地区整備事業やLRT整備事業など、未来への投資を行ったことにより、前年度より増加しました。

市民1人当たり**26**万**3,000**円(前年度比**3万1,000**円増)だよ!

中期財政計画

収支見通し(一般会計)

区分		R5	R6	R7	R8	R9	R10	計画期間 平均伸び率
歳入	市税	939	947	964	981	980	997	1.0%
	その他	1,251	1,209	1,204	1,183	1,162	1,155	△0.9%
	合計	2,190	2,156	2,168	2,164	2,142	2,152	△0.0%
歳出	消費的経費(※6)	1,932	1,906	1,878	1,879	1,857	1,877	△0.3%
	投資的経費	258	250	290	285	285	275	1.9%
	合計	2,190	2,156	2,168	2,164	2,142	2,152	△0.0%

財政指標の見通し

区分	R5	R6	R7	R8	R9	R10	目標
経常収支比率(※7)	92.4	92.3	90.5	90.1	89.3	90.7	80%台
公債費負担比率(※8)	10.8	11.8	11.9	11.5	11.6	12.0	15%以内

今後5年間を見通した計画を立てています

本市では、将来の歳入と歳出の見通しを明らかにし、行財政運営の指針とするために、今後5年間を見通した「中期財政計画」を、毎年策定しています。

■今後の収支の見込み

▼歳入 市税収入が社会経済活動の正常化などに伴い、増加すると見込んでいます。

▼歳出 消費的経費は、社会保障関係経費が引き続き高い水準で推移すると見込みました。また、投資的経費は、公共施設などの老朽化対策や都市基盤の整備に対応していく事業費の確保が必要になると見込みました。

■計画に基づいて健全な財政運営に努めます

市税などの収納対策の強化や内部努力の徹底などによる歳出の抑制を図るとともに、市債や基金を計画的かつ効果的に活用し、今後のまちづくりや市民サービスの質の維持・向上に的確に対応していきます。

計画期間中において、経常収支比率は90%前後で推移し、公債費負担比率は目標の範囲内で推移する見込みです。計画に基づき、健全な財政運営に努めていきます。

※5 土地区画整理事業は鶴田第2、宇大東南部第1・第2、岡本駅西土地区画整理事業の合計です。 ※6 消費的経費 人件費や扶助費など支出の効果が短期間のもので、後年度に形を残さない性質の経費。 ※7 経常収支比率 財政構造の弾力性を示す指標。市税などの一般財源のうち、人件費、扶助費、公債費などに使われる一般財源の割合。 ※8 公債費負担比率 公債費による財政負担の度合いを示す指標。一般財源に占める公債費(市債の返済)の割合。